

私 と 野 球 と 相 馬 高 校 ^(※1)高普第 28 回卒 太 田 雄 弘 ^(※2)

放課後になると学校からリヤカーに野球用具を積み、二の丸球場に行き、3年間練習に明け暮れた高校生というのが 21 年前の私の姿です。幸運にも私は 1 年の春から捕手として試合に出場させてもらいました。1、2 年は鈴木先生、3 年の時は桜井 ^(※3) 先生に野球を教えてもらいました。今もなお野球に携わっているのもこの高校野球が染み着いているからだろうと思います。勝ちたい、甲子園を夢みて毎日の厳しい練習に耐えられたのだと思います。特に 3 年の時、新任の桜井先生には本当の意味で野球を教えてもらいました。朝 6 時半からバント練習、体育館での始業前の座禅、放課後は個人ノックから始まり、打撃、走塁と徹底的に基本をたたき込まれました。私は主将で部員は 3 年 9 人、2 年 1 人、1 年 1 人のわずか 11 人で春季相双地区優勝し、県大会は勿来工業に逆転で敗れました。夏も初戦で福島高校に 2 対 1 で敗れ、私達の高校野球は終わりました。

練習試合で負けたのはバントの失敗だと言って暗くなるまでのバント練習、そしてボールが見えなくなると走塁練習、あの時はみんな半泣きしながら走りました。幸い、苦しい練習を励まし合った仲間と先生との出会いは、私にとっては今の自分がある基盤のように思っています。

二の丸球場は土、日曜、祭日は社会人の軟式野球で使用するため、汽車やバスで練習試合に出向くか長友グラウンドで練習をしたりしました。夏は赤土のためたいへん硬くなってしまうので、堀から水を汲んでは撒き、ボールが堀に入れば長い棒で取ったりもしました。

神社周辺は、冬場に走り込みをしたり、先生がいない時にカン蹴りをした思い出があります。

卒業後、1 年間予備校を経て、明治大学で野球を続け、4 年の春季リーグ戦にベンチ入り出来た時は本当にやってきて良かったと思いました。チームが優勝し、大学選手権でも優勝した時は、この上ない感激を味わうと同時に、毎月の仕送りをしてくれた両親に対して感謝せずにはおれませんでした。

また、教育実習でたいへんお世話になった世界史の田代 ^(※4) 先生の授業は、在学中「すごいなあ。」という印象の授業でした。先生は教科書を持参せず、大きな世界地図を黒板に、そして授業を展開してくれました。保健(体育)の島 ^(※5) 先生も迫力があり、二人とも決して居眠りする者などいませんでした。担任の日下部 ^(※6) 先生には「野球をしていては現役で大学進学は無理。」ときっぱり言われ、「1 週間考えて。」という事で、やっぱり野球が好きなのでという事を話をしました。その後、今までの生活習慣を変え、帰宅後すぐ食事、入浴後睡眠し夜中に起き少しでも勉強をするようにしました。眠くなると素振りをし、早朝ランニングをし、早朝練習に出ました。

また、忘れられない思い出は、入学後行なわれた校歌、応援歌指導です。放課後屋上で行なわれましたが、しっかり歌えないものなら、応援団の先輩にクラス単位や班単位で腕立て伏せをしながら

ら「アー、アー。」と大声を出しました。

男子校独特の上下関係の中にも自由とけじめ、人間形成をする多感な青春期にあって、今の私を養成する事ができたと信じています。

私は今年で 16 年、学法石川高校で地歴公民科の教師として教壇に立ち、4 回担任をし卒業生を送り出し、野球部顧問をしていますが、高校時代の経験が役立った事がたくさんありました。これからも故郷相馬を忘れる事なく、学んだ事を役立てて行きたいと思っています。

最後に、百周年を迎え、相馬高校の今後益々の御発展と、後輩諸君の御健闘と、卒業後相高健児の誇りを忘れず、それぞれの人生で御活躍される事を心よりお祈り申し上げます。

(※1) 「相中相高百年史」1998(平成10)年7月6日発行、「思い出の記」より。

(※2) 昭和51(1976)年卒、中村出身。

(※3) 桜井孝雄。相高教諭(保体)：昭和50～55年。

(※4) 田代俊樹：相高普第12回、昭和35(1960)年卒、中村出身。相高教諭：昭和49～62年。

(※5) 島 紘一：相高普第12回、昭和35(1960)年卒、山上出身。相高教諭：昭和49～60年。

(※6) 日下部(白岩)正和。相高教諭(美)：昭和46～52年。

(転記&※脚注 村山)